

令和5年度第1回佐倉市産業振興推進会議 議事録(要録)

日時:令和6年1月31日(水) 13時30分～15時00分

会場:佐倉市役所 議会棟2階 第3委員会室

出席委員	鈴木委員、橋本委員、林(新二郎)委員、高橋委員(代理出席)、林(洋太郎)委員、山中委員、金子委員、江川委員、山崎委員、石渡委員 (欠席:塚本委員、小林委員、坂本委員)
事務局	(産業振興部)宮本理事、鈴木部長 (農政課)小川課長、志津主査 (商工振興課)高橋課長、山口副主幹、市川主事 (佐倉の魅力推進課)鴨志田課長
傍聴	1名

開会 事務局により開会

1 産業振興部長あいさつ

2 議題

〈1)令和5年度佐倉市のコロナ&物価高騰対策支援について(報告)

事務局から資料1(佐倉市のコロナ&物価高騰対策支援について)に基づき、対策(キャッシュレス決済等)の概要を説明

〈質疑応答、意見〉

A 委員:キャッシュレスキャンペーンについて、30%還元ということで大変好評であったが、キャンペーン後に事業者アンケートは実施しているか。

→事務局(商工振興課長):PayPay社を通じて、事業者アンケートを行っており、現在、集計中である。集計完了は、2月末を予定している。

A 委員:続いて、ある事業者から、今回のキャッシュレスキャンペーンによって、客層に大きな変化があったと聞いた。特に、増加した来客の中には、「早く対応しろ」など、そういう要望への対応に苦慮したとの声があった。このことから、一時的なものでなく、長期的なキャンペーンも検討に含めてほしい。

→事務局(商工振興課長):事務局にも、良かったとの意見に加えて、委員のおっしゃるとおり、来客の増加による弊害があったとの意見をいただいている。次回、また開催する機会があれば、良い点悪い点を踏まえて、多くの方に喜ばれる事業を実施したい。

B 委員:私たちの商店街では、普段、商店街で買い物しない方に、多く来ていただけた。私の店舗では、キャンペーンを機にPayPayを使ったお客さんが、現在も、PayPayを使い続けており、とても助かっている。

C 委員:私は、現金派だが、若い人に聞くと「こんなに便利なものはない」という。今回は、自信がなくてできなかったが、これを機に勉強していきたいと思う。

副委員長:30%ポイント還元というのは、非常に魅力的である。私だったら、結構使うだろうと思った。

D 委員:私も同様に30%ポイント還元は魅力的だと感じた。また、市外在住であるが、キャンペーンを活用させていただいた。

E 委員:キャッシュレスキャンペーンでは、管内の店舗から、売上が大きくあがったとの報告を受けた。ただ、事業者目線だと、利用手数料や導入費用などの問題から、参加しやすい事業者とそうでない事業者があるのではないか。また、農業者支援施策については、昨年、農政課さんには、ご支援いただき大変感謝している。市内の農業者や組合員からも、そのような声が届いているので、今後も引き続き、資材高騰などの課題について、支援をしていただきたい。

F 委員:クレジットカードに慣れてしまっているが、この機会に PayPay の利用も考えていきたい。

委員長:私も職業柄、キャッシュレス決済を使っているが、高齢者をいかに非接触型にするかというのもテーマでしょうし、若い人たちをできるだけ経済の活性化に繋げるために、必要な施策だと思うので、事務局の方でアンケートをしっかりとまとめていただいて、次回の施策に活用してほしい。

B 委員:街路灯への補助金について、商店街の電気代は、この1年間で大きく値上がりした。特に、街路灯が無いと商店街が暗くなってしまう、防犯上の懸念も発生してくるので、街路灯への補助金は、重要な施策であったと思う。

委員長:私の商店街でも同じような問題があり、街の治安維持のために商店会もその一助になろうと活動してきたが、こういう補助をいただけるとありがたいのは、おそらく、どこの商店街も一緒だろうと思う。国の政策にもよるかと思うが、来年度も街路灯への補助金を継続する方向性はあるか。

→事務局(商工振興課長): 今回のものは、物価高騰分の差額給付という今年度事業であるが、電気料の補助は通常行っており、これから改めてご案内するので、ご予定いただきたい。

(2)産業振興ビジョンの進捗について

事務局から資料2(佐倉市産業振興ビジョン進捗管理シート)に基づき、産業振興ビジョン(商工事業等)の概要を説明

<質疑応答、意見>

G 委員:ボランティア活動を通じた観光客目線の意見として、北総四都市のバスツアーによる観光客が増加したと感じた。しかし、観光客の多くは名所を素通りしてしまっており、事務局説明にあったとおり、滞在時間の少なさが問題になっている。これに対して、飲食可能な休憩場の設置や外部委託など、滞在時間の増加に向けた新しい計画などがあれば、教えていただきたい。

→**事務局(佐倉の魅力推進課長):**委員ご指摘のとおり、旅行雑誌などへの取り上げにより、観光客が非常に増加していると実感している。ただ、観光客の滞在時間の少なさは、事務局でも大きな課題として捉えており、旧平井家などの古民家を活用し、飲食店などの参入によって活性化できる方法を、現在、検討中である。また、市内には空き店舗が多く存在しており、この軒先だけでも一時的に貸していただき、飲食や物販などが行えないか、古民家活用と併せて検討中である。加えて、サンセットヒルズなどの印旛沼周辺地域については、来年度、指定管理者の公募を行い、運営に民間事業者を加えて、進めていきたいと考えている。

A 委員:同じ観光部門として、滞在時間をいかに増加させるかは、これまでずっと懸念事項であったが、行政と一体となって、滞在時間の増加に向けて連携していきたい。続いて、産業振興ビジョンの見直し時期について、総合計画などとの足並みはどうなっているか。

→**事務局(商工振興課長):**総合計画に準じた形で、産業振興ビジョンが作成されているため、総合計画に従って、産業振興ビジョンも併せて見直しを行っている。

A 委員:中期業務計画の見直しについて、産業振興ビジョン進捗管理シートで示している指標は、総合計画と異なった形で、位置付けがされたわけだが、それと指標も合致する形で今回見直しということではよろしいか。また、今回、この見直しについては、いつ行うのか。

→**事務局(商工振興課長):**中期業務計画は、前期中期後期とある中で、前期の反省点や実績を踏まえて、新しく定めたものである。これは、総合計画という全体計画の個別計画という形で、産業振興ビジョンが位置付けられているので、上位計画で指標を改善したところについては、下位計画である産業振興ビジョンの方でも、併せて改善をしていきたいと考えている。なお、時期については、来年度以降を予定している。

F 委員:工業団地連絡協議会は、工業団地内の情報共有や委員活動を行っているが、コロナ禍においては、中々集まることができず、ほとんど活動できなかった。しかし、徐々に活動を再開することができるようになり、市の補助金を活用し、清掃活動などを行うことができた。また、工業団地内のインフラが老朽化してきており、行政と連携しながら対応していきたい。

C 委員: 農業者支援策について、市や県からの補助金は、大変助かった。また、昨年、女性の新規就農者懇談会を開催していただき、意見交換の場として、良い機会だった。加えて、提案として、新規就農者への支援のため、農地や農業施設確保に向けた、相談窓口を検討してほしい。

→**事務局(農政課長):** 昨年の女性の新規就農者懇談会は、ご好評いただいたところなので、来年度以降は、新しい切り口を考えながら引き続き開催していきたい。

B 委員: 子供を預けられる施設の職員が不足していると聞いた。そのため、人材確保に向けて、広報活動を強化してほしい。

D 委員: 空き店舗対策について、補助金交付後に自走営業ができるかが課題であるため、これをどのように維持するかが重要。佐倉市で起業塾等の機会があれば、企業組合制度の普及推進を図ってきたい。

副委員長: 全国的に物価高騰や人手不足が課題となる中で、佐倉市は創業支援に非常に熱心であると感じた。創業支援は、創業後のフォローアップが重要で、今年度も佐倉市に、専門官を数名派遣している。商工会議所も含め、引き続き連携していきたい。

委員長: 本日いただいた皆様からのご意見を、コロナ&物価高騰対策支援、産業振興ビジョンに反映させることでよろしいか。

→全員賛成

3. その他(連絡事項等)

事務局から委員の任期及び報酬について説明。

閉会